

# 児童研だより

2020年10月 No.63



発行：聖徳大学 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111 編集：聖徳大学児童学研究所

## CONTENTS

### 児童学について考える

ヒューマンケア領域の現象特性と共通項  
～学問は形を求め、形は学問を進める～

連載第7弾：医療保育を例に、人間・環境・健康が基本の看護学とヒューマンケア領域で共通する児童学を考えます。

2



としゃぶつ ごえん  
子どもと法 吐瀉物の誤嚥による保育事故  
～睡眠時の無音の吐瀉による死亡事故に、  
保育所の注意義務違反を問えるか～

登園時の保護者との短い会話において、園児の健康状態を把握し保育環境を整えることの重要性を考えてみます。

甲斐 聡 4

### 活動レポート①

おやこDE広場にこにこキッズ～活動再開について～

地域の子育て支援拠点として、お子様や来園者の方々の安全・安心に応えられる居場所づくりに取り組んでおります。

5

### 活動レポート②

児童学研究所 発達支援研究部門：  
その取り組みと展望

6

当研究所の研究部門の実践として、発達障害児の対応に苦慮する保育所や児童・保護者・教師への支援を医療・児童学などの多職種協働アプローチにより行い、発達障害のエキスパート育成を目指します。

### 研究室訪問



他人との言葉による相互理解の難しさから、発達心理学による人間の奥深さの研究を志した先生は、読み合いという共感的反応を伴う親子のコミュニケーションツールとしての絵本の意義を説きます。

齋藤 有 7

### 私の本棚より

夜ふかしが子どもの睡眠に与える影響を、睡眠の記録により改善を試みる1冊と微生物学の祖パスツールの開発したワクチンで、人類が病気に立向った歴史を再考するもう1冊です。

小口 多美子 小松崎 典子 8

## 第56回聖徳祭 児童学研究所・保健センター合同企画 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と聖徳大学 ～保育者の立場から子どもたちを守るために～」のご案内

2019年12月31日、中国湖北省武漢市から病因不明の肺炎(原因不明)の事例が世界保健機関(WHO)中国事務所に通知されました。これが第二次世界大戦以後、最も世界を揺るがすことになる新型コロナウイルス感染症(Coronavirus disease 2019、国際正式名称：COVID-19)の始まりでした。

2020年10月初めには、世界の感染者が3,500万人を超え、死亡者は103万人に達しています。日本でも感染者8万6千人超、死亡者約1,600人となり、「新しい生活様式」「三密を避ける」「ソーシャルディスタンス」が合言葉になっています。

不幸中の幸いとして、子どもの感染者に重症例がほとんど報告されていませんが、COVID-19のことが未だよくわかっていなかったパンデミック初期には、全世界で保育所・幼稚園から大学まで閉鎖となり、子どもたちの生活が激変してしまいました。

そうした中、保育者を養成する教育機関として、子どもたちを守るためにどうすればよいのかを、皆さんと一緒に考えるための企画を立てました。大学構内に足を運んでいただけないのが残念ですが、精いっぱい企画ですのでご覧ください。

第56回聖徳祭 児童学研究所・保健センター合同企画  
テーマ 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と聖徳大学～保育者の立場から子どもたちを守るために～」

日時 令和2年11月14日(土)・15日(日)  
10:00～15:00

開催方法 オンラインで開催  
※詳細は児童学研究所(知財戦略課)ホームページをご覧ください。  
<http://www.seitoku.ac.jp/chizai/event/2020/10/12969/>

☆主な企画

- ◇感染症の歴史(世界を変えた感染症—ペスト(黒死病)、スペインインフルエンザからCOVID-19まで)
- ◇そもそも感染症ってなに—感染症学史始め
- ◇COVID-19早わかり—パンデミックの現状、治療法からワクチンまで
- ◇COVID-19とインフルエンザに備えるために—専門家に聞く
- ◇保育現場の感染症対策
- ◇第15回「子どもの発達シンポジウム」のご案内

# 児童学について考える

ヒューマンケア領域の  
現象特性と共通項

～学問は形を求め、形は学問を進める～

水戸 美津子 看護学部長  
原田 正平 児童学研究所長  
甲斐 聡 児童学研究所准教授



第7回目となる今回は、聖徳大学大学院看護学研究科長、聖徳大学看護学部長の水戸美津子教授をお迎えします。ヒューマンケアという現象から児童学と看護学の共通項を見出し、児童学の形を改めて浮き彫りにしていきたいと思います。

**原田：**現在、新型コロナウイルス感染症によって、大学の教育も非常に大きな影響を受けております。特に本学のように実習がある大学に対する影響は多大であると思います。

児童学研究所は名前にありますように、児童学を学問の中心に据えています。そもそも児童学がどういったものかということに関して定まったものはありません。そこで私たちは聖徳大学の内部で児童学をどのように捉えているかを、『児童研だより』冒頭の鼎談の中で話させていただくことにしました。今回は今まで看護の立場で教育、実践をされていた水戸教授にお話をおうかがいします。まず、水戸教授が保育者の養成校に来て、児童学という学問領域、あるいは実践面にふれ、どうお考



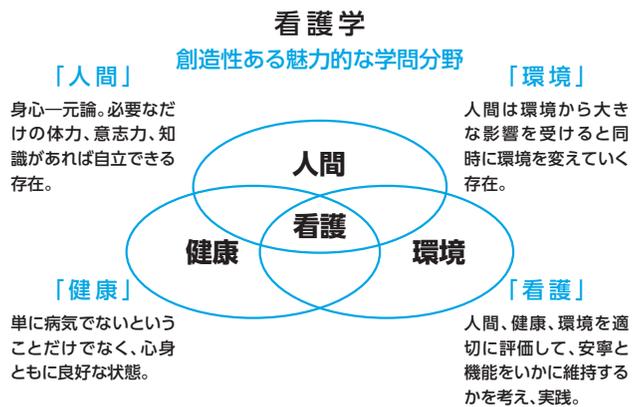
水戸 美津子 看護学部長

えになったかをお聞かせください。

**水戸：**最初は平成24年5月に、学長特別補佐として本学に came。そして、秋学期には大学院児童学研究科の児童保健実践研究(質的研究法)を受け持ちました。

児童学研究科、児童学もわかりませんでした。児童学研究科で学ぶ院生はどんな人たちなのかという興味がありました。私の研究法、特にM-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)の分析が、同じヒューマンケア領域の学問なのでお役に立つかなと思いお引き受けしました。当時の院生が、幼稚園に勤務する方で、インタビューのデータを少し提供して下さり、実際にその分析の方法で結果をみました。すると概念名に看護の領域での質的な分析と共通性があると思いました。それで、看護と保育は学問領域としての現象は違うけれど、ものすごく共通するところがあることに気が付

き、おもしろいなと思いました。いわゆる看護とか保育とか、あるいは児童とかでなく、ヒューマンケアの領域での検証はものすごく共通性があり、共通性と同時に、それぞれの特性があるということも鮮明になりました。看護学の基本は、「人間」と「健康」と「環境」で、ナイチンゲールが言っているように、看護学は、人間の生命力の消耗を最小にするために環境を整えること、そこにすべてが包含されていると思っています。



児童学も、例えば、子ども・教育・環境といった何かしらのコアはないと学問にならないと思いますが、ヒューマンケアの領域という点では共通している、現象を捉えるという意味では非常に共通していると感じました。そういう意味ではもっと学問分野として掘り下げることができる分野だなと思っています。

**原田：**今まで児童学についてお話を伺った先生方は、児童学、あるいは子どもを対象とするご自身の専門分野の立場から児童学を語ってくださったところが大きいと思います。本日は水戸教授が、看護学には、人間・健康・環境を中心としたコアが決まっています。そこから共通する点、違う点を見ることによって看護学とは何だろうと考える視点を提供して下さったので、児童学とは何だろうということがより見やすかったのかなと思います。体系としての児童学とは何かということを考えないと、学問とか研究、他分野との差別化はできませんので、そういった意味でより鮮明に見えてきました。

今までの一連の鼎談「児童学について考える」のまとめをしていただき、一同感銘しているところでございます。ありがとうございます。





子どもと法 としやぶつ ごえん  
吐瀉物の誤嚥による保育事故  
⑨  
一睡眠時の無音の吐瀉による死亡事故に、  
保育所の注意義務違反を問えるか  
聖徳大学児童学研究所准教授 甲斐 聡

学校安全Webによる保育所での窒息事故の死亡例として、ミニトマト・カステラ・白玉団子等とあり、この他にも乳幼児の嘔吐誤嚥による事故は、訴訟にまで至らなくもしばしば発生しています。今回の判例は、無認可保育所で夜間の保育委託中に一歳二か月の幼児が窒息死したケースです(千葉地判平成5年12月22日判例時報1516号105頁)。

事実の概要は以下のとおりです。被害児Aは午後1時に野菜炒めやご飯を食べ牛乳を飲み、入浴後6時まで昼寝をします。Aは風邪気味で当日も鼻水を出していたが、母B[夫と別居中]は検温をしていません。Bは6時15分ごろ保育所経営者XにAを預けたが、特に家庭でのAの身体の状態についてXに引継ぎをしていません。暫くの間Aがいつもよりよく泣くのであやした後、6時30分ごろコロッケ等を食べさせたが舌で押出すなど普段より食欲がないので、Xは食事を片付けたが、その間Aは泣きながらまとわり付いてきました。

午後6時50分ごろXは保育室内のベッドにAを入れ、隣室の事務室で書類作成します。ベッド内には他児が静かに座りテレビを見ていたが、Aは柵をガタガタ揺すり、しゃくりあげる様に泣いていました。他の二児は保育室内の床に寝ころびテレビを見ています。

保育室と事務室とのドアは約90度開けられていたが、(a)事務室の椅子に机に向かい座ると、ベッドを見通すことはできず、(b)椅子の向きをベッドに向けてもAのベッドの端が僅かに見えるだけで、(c)ベッド全体を見るには、保育室の方に一歩身を乗出す必要があります。また、(d)事務室とベッドの距離は5～6mであり、静かな状態でもAが顕著な外部的異常を示したことに気付くのは困難でした。

以上の状況において、7時15分頃ベッドをガタガタ揺すっていたAが静かになっているのに気づき、Xはベッドから降ろすため近づいたところ、Aのうつ伏せでグッタリした状態を発見し直ぐに救急車を要請しました。XはAの異常を発見するまでの約25分間一度も様子を見ていません。この様にAは何らかの原因で嘔吐し、吐瀉物を気管に詰まらせ窒息状態となり死亡した点について、Bは不法行為に基づく損害賠償(民法709条)を請求しました。

裁判上の主な争点は、Xの①監護義務違反(預かった園児の体調は、注意が特に必要とされる程のものであったか)、②監視義務違反(乳幼児の監視はどの程度まで必要か)、Bの③過失による過失相殺(来園前のAの家庭での状態をXに正確に引継がなかった点に落度はないか)です。

第一のXの監護義務違反については、Aはよく泣いて多少食欲がない状態であったが、Bからの引継ぎを受けていないXの目から体調が特に悪いとは考えられず、仲の良い園児と同じベッドに入れることで機嫌が直ることを期待して行ったと判例は認定しました。つまり、Aの体調や機嫌が安定するまで抱っこしたりあやしたりしなくとも、Xの行為は不適切とはいえず監護義務に違反しないと判示します。

第二のXの監視義務違反は、保育に携わる者の常識として乳幼児は食べた物をよく嘔吐することがあり、吐瀉物を気管に吸飲し死亡することも稀ではないことを前提として保育すべき注意義務を負っているといえます。もっとも理想論は別として、乳幼児がいる部屋に常に保育士を在室させることは困難です。判例では、監視義務の程度を「特段の事情なき限り、乳幼児を注視し続け一寸たりとも目を離してはいけないというほど高度なものではないが、乳幼児が顕著な外部的徴表により異常を示した場合には即座に気付いて対応し得る程度のものが要求されている」とします。つまり、園児が顕著な外部的徴表に異常を示した場合、即座に対応し得る程度の注意義務を負い、その判断は、監視方法・園児の人数・保育室内の状況・事務室と保育室の距離・事務室での作業位置などを考慮して行います。

この点は、前記(a)～(d)の状況でテレビをつけて約25分間目を離す行為を、即座に気付いて対応する体制でなかったと監視義務違反を認定します。更に、Xが監視義務を尽くしていればAの死亡を避けることができたか(死亡との因果関係)について、無音の嘔吐としても吐瀉物によって気管閉塞し痙攣状態に陥った場合、「努力呼吸により大きな呼吸をするので外部的にも顕著であり、必要な注意をしていれば気付くのが普通」として、因果関係を認めました。

第三はBの落度による過失相殺の点です。民法722条の過失相殺とは、公平の観点から被害者に過失があった場合、賠償額の算定時にそれを考慮するものです。判例は被害者の範囲を、「被害者と身分上ないし生活関係上一体をなす」と者と拡張しており、ここでは母親であるBのことです。乳幼児の保護者は、その健康状態の維持に第一義的責任を負うことは、平成28年改正の児童福祉法2条2項にも明文化されています。本件では、Bは数日前からのAの体調を正確に伝えず検温なしに当日入浴させたことが、「当該慎重さを欠いた行為が本件事故の一因」とされ、60%の過失相殺が相当とされました。

気管支内の吐瀉物の除去は医師でも困難であるとされます。この判例から、来園時の保護者との短い会話により園児の体調を聴取し、当日の保育環境の調整を日々柔軟に行うことが幼児教育者の課題といえましょう。



## 活動レポート⑦

### 「おやこDE広場にここにキッズ」～活動再開について～

聖徳大学児童学部児童学科講師／聖徳大学児童学研究所研究員 上田 智子

「おやこDE広場にここにキッズ」は、松戸市からの委託を受けて、聖徳大学児童学研究所が運営している「おやこDE広場」(地域子育て支援拠点)です。地域の概ね3歳までのお子さんとその保護者が自由に訪れ、親子でおもちゃや絵本を楽しんだり、互いに交流したり、スタッフに子育ての悩みを相談したりすることができます。良質なおもちゃや乳幼児のことを考えて作られた室内環境が人気で、月平均250組の親子が来館します。児童学科を中心とした学生ボランティアの存在も特色の1つで、「お姉さん」との関わりを楽しみにしてくれている親子も多いようです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年3月から6月まで閉館していましたが、7月に入り再開することができました。松戸市の指導のもと、感染拡大防止対策として、事前予約制による入館者数制限、入館時の検温、保護者の方のマスク着用をお願いなどを実施したり、おもちゃや絵本などの消毒や換気も以前に増して頻繁に行うようにしています。さまざまなイベントも当面中止となっていますので、本来の「ここにキッズ」の賑わいとはほど遠いのですが、それでもこの場を必要とされている地域の皆さんに、どうしたら安全・安心な居場所を提供していけるか、スタッフ一同、休館中から議論をし、工夫と努力を重ねてきました。再開直後に予約をしてきてくださった親御さんは、出産後まもなくステイホーム期間に入ったため、他の赤ちゃんを見る機会がほとんどなかったとおっしゃっており、「ここにキッズ」が地域にあることの重要性を改めて実感することとなりました。

これからも地域の親子に安心して訪れていただけるよう、感染防止対策に取り組みながら、子育ての楽しさを共有し、不安を解消してもらえる居場所づくりに取り組んでいきたいと思っております。



館内の様子



ここにキッズスタッフ



おもちゃコーナー

#### ご利用案内

開館日: 週4日(火・水・木・金曜日)

※祝日、大学休日はお休みです。

開館時間: 10時～15時

申込方法: 現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前予約制での利用となっています。最新の情報はここにキッズホームページをご確認ください。

#### ■注意事項■

- ・利用者は、利用する当日に自宅で検温をしてください
- ・利用時、検温を行い、アルコール消毒等を行った後、「健康観察シート」をご記入いただきます
- ・保護者の方は、マスクを着用してください

#### ●ここにキッズHP●

<http://www.seitoku.ac.jp/chizai/nikoniko/>

※館内の様子やスタッフからのメッセージをInstagramで発信しています。ぜひご覧ください!



## 活動レポート②

### 児童学研究所 発達支援研究部門:その取り組みと展望

聖徳大学大学院教職研究科 / 聖徳大学児童学部児童学科 教授 / 聖徳大学児童学研究所 主任研究員 久保田健夫



発達障害傾向を有するお子さんやそのご両親、担当する保育者や教員を支援することを目的に、今年、児童学研究所の中に発達支援研究部門(エピジェネティック研究部門)が開設されました。心理士と医師の資格を有する教員がペアで近隣の保育・教育機関を巡回訪問し、保育者や教員、保護者にタイムリーな助言を行うことがこの部門の役目です。

私が赴任した3年ほど前、ある幼稚園を訪問した際に園長先生から伺った話があります。その話とは、「発達障害傾向を認めた2人の入園児のうち、片方の親御さんは障害傾向を受け入れ、その子に合った保育が実践され、さらに療育施設にも通った結果、障害が目立たなくなって卒園していきました。しかし、もう一方の入園児の親御さんは、小児科医に『様子を見て大丈夫』と言われたことから、通常の保育を行った結果、障害傾向が認められたままであった」という経験談でした。

私が赴任した3年ほど前、ある幼稚園を訪問した際に園長先生から伺った話があります。その話とは、「発達障害傾向を認めた2人の入園児のうち、片方の親御さんは障害傾向を受け入れ、その子に合った保育が実践され、さらに療育施設にも通った結果、障害が目立たなくなって卒園していきました。しかし、もう一方の入園児の親御さんは、小児科医に『様子を見て大丈夫』と言われたことから、通常の保育を行った結果、障害傾向が認められたままであった」という経験談でした。

また、先輩医師より「発達障害の治療には診断年齢の倍を要する。例えば、3歳で介入すれば6年ですむが、2年遅れて5歳での介入となると10年の治療期間を要する」という経験則を聞きました。

さらに、動物を使った基礎研究から、「虐待は脳のDNAにエピジェネティックな変化(環境による遺伝子の変化)をもたらして遺伝子の働きを変え、行動障害を引き起こすこと」、逆に「幼少期の良好な養育環境はエピジェネティックな異常を改善させ、遺伝子の働きが回復し、行動障害が軽減すること」がわかってきました。このような幼少期の脳の可変性や可逆性は、すでに100年前に、幼児教育の祖とされるイタリアの小児科医モンテッソーリによって展望されていました。

話は変わりますが、2年ほど前、長期にわたり不登園になった子どもに保護者が困り、園としても苦慮しているとのことで、ある幼稚園から緊急の訪問要請がきました。その頃、学内の心理学科の先生と、心理士と医師による多職種協働アプローチについてしばしば議論してきたこともあり、その先生と一緒に訪問しました。園長や担任教諭、我々二人の教員が揃って母親から話を伺いました。初対面の我々の前で、様々な家庭の事情などを話してくださり、最終的に、お母様が自ら、これから工夫する手立てを見出され、我々はその実行を見守ることになりました。

た。その結果、程なくして、その園児はまた登園できるようになったとの連絡がありました。

この事例を皮切りに、千葉県内にある聖徳大学附属の4つの幼稚園に対する発達支援体制が構築されました。すなわち心理士資格をお持ちの先生方と医師の私がペアで巡回訪問することになったのです。

このような訪問活動の中で様々な助言をさせていただきました。例えば、「お遊戯会の準備の時も特別扱いはせず、健常児と一緒に保育をし、できるだけ同じ環境を与えてあげることが大切です。」といった助言、「朝のクラス活動に集中できないのは、睡眠不足が原因だと考えられるので、これからは夜遅くまで遊ぶことは避けて、早寝をして、遊ぶのは週末にするようにしてください」、「お子さんも衝動的な行為をしたいと思っているのではなく、むしろそのあとに自己嫌悪になってしまう心配があるので、衝動性の強い時期だけお薬を飲むのも1つの選択肢です」といった心理学的、医学的な助言を担当の先生やお母様、時にご両親に対して行いました。

以上のような実践経験を、教科書には出ていない生のリアルタイムの情報として、個人情報に十分な配慮をした上で、大学や大学院の学生教育にも活用しています。例えば、健常児に囲まれてのびのびと保育を受けるダウン症児の様子を特別支援教育のダウン症候群の授業の中で紹介したり、自閉症児独特の偏食と保護者の困り感について保育士資格取得のための授業の中で取り上げたりしました。

当部門の今後の課題として、支援活動をさらに拡充させること、さらに我々専門職による支援の保育所や幼稚園、小学校での受け皿になってもらえる発達障害のエキスパートを育成していくことを考えています。

具体的には、新型コロナウイルス感染対策で充実したオンラインシステムを活用して、多忙で通学が困難な現職の先生方に対して発達支援の理解を深めていただくプログラムを作成することを考えています。その際の授業担当は心理専門職や医療専門職のほか、音楽療法や絵本の読み合いや色彩、障害児に対する栄養や医療的ケアがご専門の先生方に授業を担当してもらい、これをオンラインで配信することで、発達障害児一人ひとりのニーズに合わせて多面的なアプローチができる先生を育成できたらと考えています。聖徳大学の英知を結集して、全国の発達障害傾向を認めるお子様やその保護者の方、その保育や教育を行っている先生方のためになる情報を発信することができたらと思っています。



# 研究室訪問 #26

聖徳大学児童学部児童学科  
講師

齋藤 有 研究室



第26回は、本学児童学部児童学科で「発達心理学」と「子ども環境学」を専門に研究されている齋藤有講師です。

## ■先生のご専門についてご紹介ください。

私は、子どもの発達を取り巻く環境について、発達心理学をベースに研究しています。特に、子どもには身近なメディアである絵本を介した親子のやりとりについての研究から、人的環境として親の関わり、物的環境として絵本の役割、そうした環境と主体的に関わり発達していく子どもについて考えています。

## ■先生が大学の教員、研究者になられたきっかけはなんですか。

私はもともと小さな子どもと関わるのが好きでした。子どもとは表裏なく付き合えるからです。いつからか相手のことばの裏側を考えるなどコミュニケーションの難しさを感じるようになった私は、大学で心理学を学び、それが「発達」という現象であり、「人間」という存在の奥深さを生み出すと知って、もっと勉強したいと思うようになりました。

絵本に関心をもったのは、卒業研究で訪れた幼稚園や保育所の子どもたちが絵本に夢中になる姿がきっかけです。その後、学内外で出会った魅力的な研究者との交流や、研究室での研究プロジェクトにも大きな影響を受け、今に至っています。

## ■ご専門の学問の魅力はなんですか。

発達心理学や子ども環境学の研究テーマが日常にあることです。先日、9ヶ月の息子に『いないいないばあそび』（偕成社）の絵本を読んだところ、息子がはじめて、絵本の「ばあ」と顔が出てくるタイミングで笑い、自分からページをめくったのです。こうした子どもの絵本に対する反応の背景には、絵本の特性や子どもの認知発達、親やきょうだいとの経験があり、子どもの反応が、また絵本を読もうという親の気持ちや関わりを引き出します。子どもの環境は、子ども自身によっても豊かになるわけですね。このように日常から一歩踏み込むだけで、学問の世界が広がるのが魅力だと思います。

## ■ご専門の学問・先生の研究において、現在わかっていることを教えてください。

「読み聞かせ」というと、親が絵本を読み、子どもが静か

に聞く姿を思い浮かべるかもしれませんが、近年は、「読み合い」と呼ばれるように、絵本はコミュニケーションのツールであることが重視されています。私の研究でも、子どもが絵本を読んでいる途中に「あれ?」「どうして?」と驚き、疑問を発した時に、一緒に絵本を読んでいるお母さんが、「どうしてだろう?」「不思議だね」と子どもに共感的な反応をした場合に、絵本への子どもの自発的な反応が増えることも明らかになりました。

2000年「子ども読書年」を機に、0歳児の家庭に絵本をプレゼントするブックスタート事業が導入されて以降、全国的な調査でも、子どもが1歳になる前から絵本を読む家庭が増えていますが、子どもが幼いほど「読み聞かせ」はなじみません。絵本が子どもの発達に良いのは、子どもが絵本に主体的に関わるからです。絵本をしっかりと読まなくてはと思わず、子どもの反応を楽しみながら読むことが大切だといえます。

## ■先生のこれからの夢はどのようなものがありますか。

私はこれまで家庭というフィールドで、子どもが主体的に絵本と関わることのできる環境について研究してきましたが、今後は、保育や教育の現場で、一人ひとりの子どもが主体的に絵本と関わることのできる援助を考えていきたいです。現在、絵本の読み合いに、絵本の世界に関連した遊びをプラスする「絵本の読み合い遊び」の実践を保育所等で行う研究プロジェクトに関わっています。ここでは、定型発達の子どものも、非定型発達の子どものも、絵本の世界で遊ぶことを通じて、言語や運動、社会性の面で発達することが明らかになっています。こうした実践にも積極的に関わっていかれたらと思っています。

## ■読者の方々へのメッセージがあれば教えてください。

絵本をコミュニケーションツールと考えれば、それは、文字を読めない小さな子どもだけのものではありません。「甘えの構造」で有名な土居健郎先生が指摘されていますが、文字の読める子どもが、あえてお話を読んでもらいその世界に浸るのは、甘えの欲求を満たす体験にもなります。子どもも大きくなるとスキンシップは恥ずかしくなりますが、そんな時、絵本を読んでもらうことが、大人との信頼関係を確認し、より深める体験になるのではないのでしょうか。ぜひ家庭で、保育や教育の現場で、絵本を共有して心地の良い時間を過ごしてみてください。

(腰川 一恵 記)



# 私の本棚より

## 子どもの夜ふかし 脳への脅威

三池輝久著  
集英社新書

ドキッとするタイトルに、つい手に取りました。日本人は近年、睡眠不足です。さらに、感染症の影響による外出の自粛により、夜ふかしとなり、幼児でも夜中まで起きてしていると聞きます。

ここでクイズです。睡眠不足は、土・日の寝だめで解消できるか?、ショートスリーパーになる方法はないか?

著者は「睡眠は脳を創り、育て、守る」と言います。睡眠のメカニズムや、脳の神経の創られ方、睡眠不足が発達障害の原因の理由等、分かりやすく説明しています。

目次には、睡眠不足と学力の低下、寝ない子の海馬は小さい、子どもの脳は疲れている、睡眠障害と発達障害と続きます。それらの問題と改善の例が多く紹介されていて、グイと引き込まれてしまいます。読んだ後は、少し位食べなくても良いから寝させよう、と誤ってしまいました。

最も興味を引くのは、睡眠時間記録表です。縦軸には日時、横軸は24時間を30分ごとに区切り、寝た時間を塗ります。それを1週間程記録すると、一目で睡眠状況が分かります。案外寝ていることに安心するかもしれません。



さて、クイズの答えは、寝だめは効果ありませんし、ショートスリーパーの方法はありません。

聖徳大学看護学部  
看護学科  
准教授 小口 多美子

## パスツールものがたり

としまかをり著  
金の星社

パスツールは、19世紀のフランスの化学者です。私は小学生の時に読んでいた「科学と学習」(学研)に掲載された「パスツールの生涯」に大変感銘を受けました。後年、見つけたのがこの本です。

19世紀は、まだ微生物(菌やウイルス)が病気の原因になることがわかっていませんでした。顕微鏡で見ることでできる小さな生物は、自然に発生すると考えられていたのです。しかし、パスツールは実験によって微生物が空気中にあることを証明しました。この実験がきっかけとなり、ぶどう酒がくさってすっぱくならないように加熱して菌を殺す「低温殺菌法」を発明したのです。さらに、パスツールは病原菌の研究を行い、当時、世界中で流行していたコレラやたんそ病のワクチンを開発しました。パスツールの研究は、多くの研究者の模範となるとともにたくさんの人を病気から救うこととなりました。日本では、黒船が来航して時代が大きく動いた頃のことです。

パスツールの研究は、現代の私たちの生活にとっても役立っています。イラストとわかりやすい文章で、科学のおもしろさがわかる一冊です。



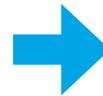
聖徳大学人間栄養学部  
人間栄養学科  
准教授 小松崎 典子

### アンケートご協力をお願い

最後までお読みいただきありがとうございます。『児童研だより』No.63はいかがでしたか? パソコンまたは携帯から、どうぞ皆様のご意見をお寄せください。ご協力いただいた方には、オリジナルグッズをお送りいたします。

☆『児童研だより』アンケート入力フォーム専用ページ  
<http://www.seitoku.ac.jp/chizai/kenkyujo/jidou/goiken/>

携帯電話の方はコチラ



### ホームページのご案内

聖徳大学児童学研究所ホームページでは、最新のイベント情報の配信や『児童研だより』のバックナンバーがご覧いただけます。



<検索方法>  
検索サイトで「聖徳大学」と入力して検索してください。

聖徳大学 (<https://www.seitoku-u.ac.jp/>) のホームページ内「地域連携・社会貢献」から「児童学研究所」リンクボタンをクリックして、ご覧ください。

>>>>

